

重点課題5 生涯を通じた一人ひとりの健康の保持・増進

施策の方向 (1) 生涯にわたる一人ひとりの健康の包括的な支援

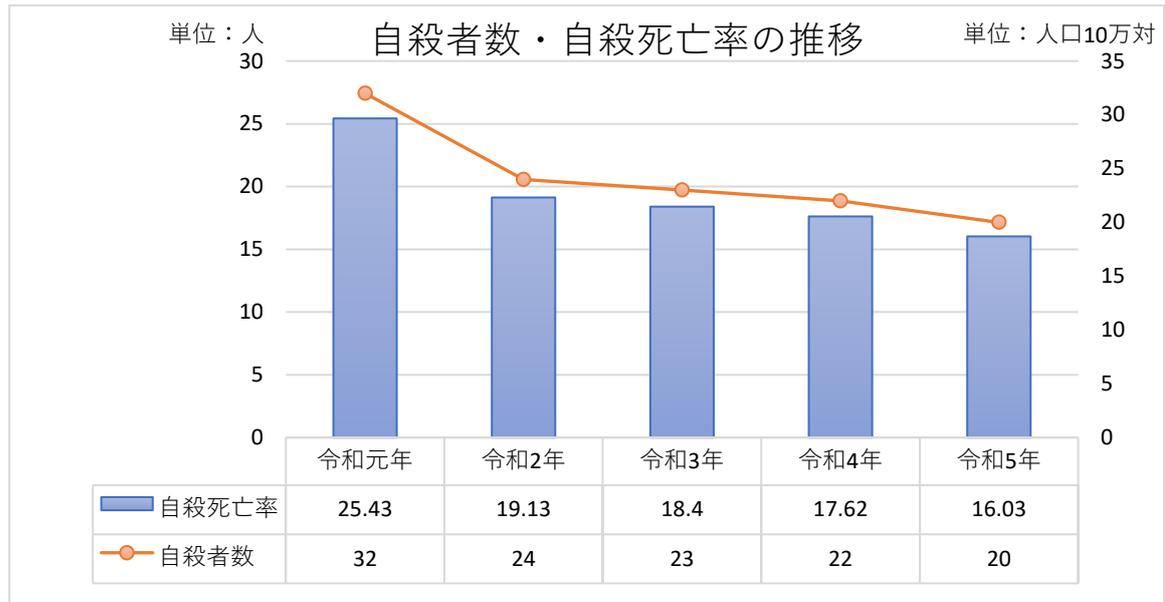
施策の方向 (2) 妊娠・出産等に関する健康支援と性に関する正しい理解の促進

施策の方向 (3) 生涯にわたるスポーツ・身体活動の推進

1 統計情報等

(1) 自殺者数・自殺死亡率の推移

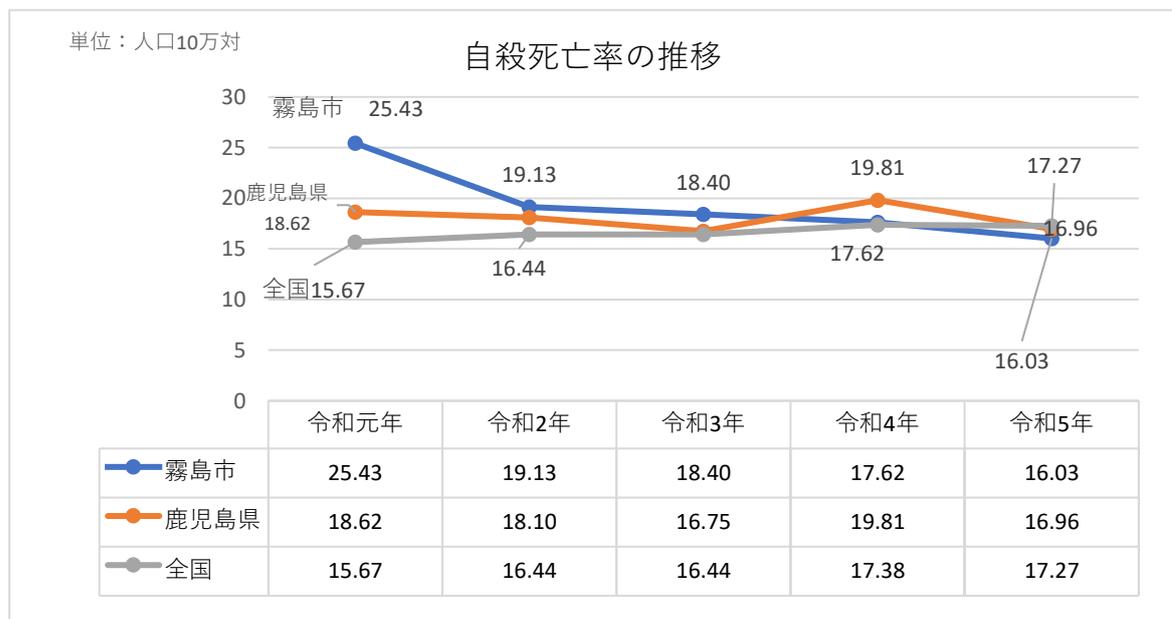
本市の自殺者数・自殺率ともに年々減少している。



自殺統計（自殺日・居住地）

(2) 自殺死亡率（霧島市・鹿児島県・全国）の推移

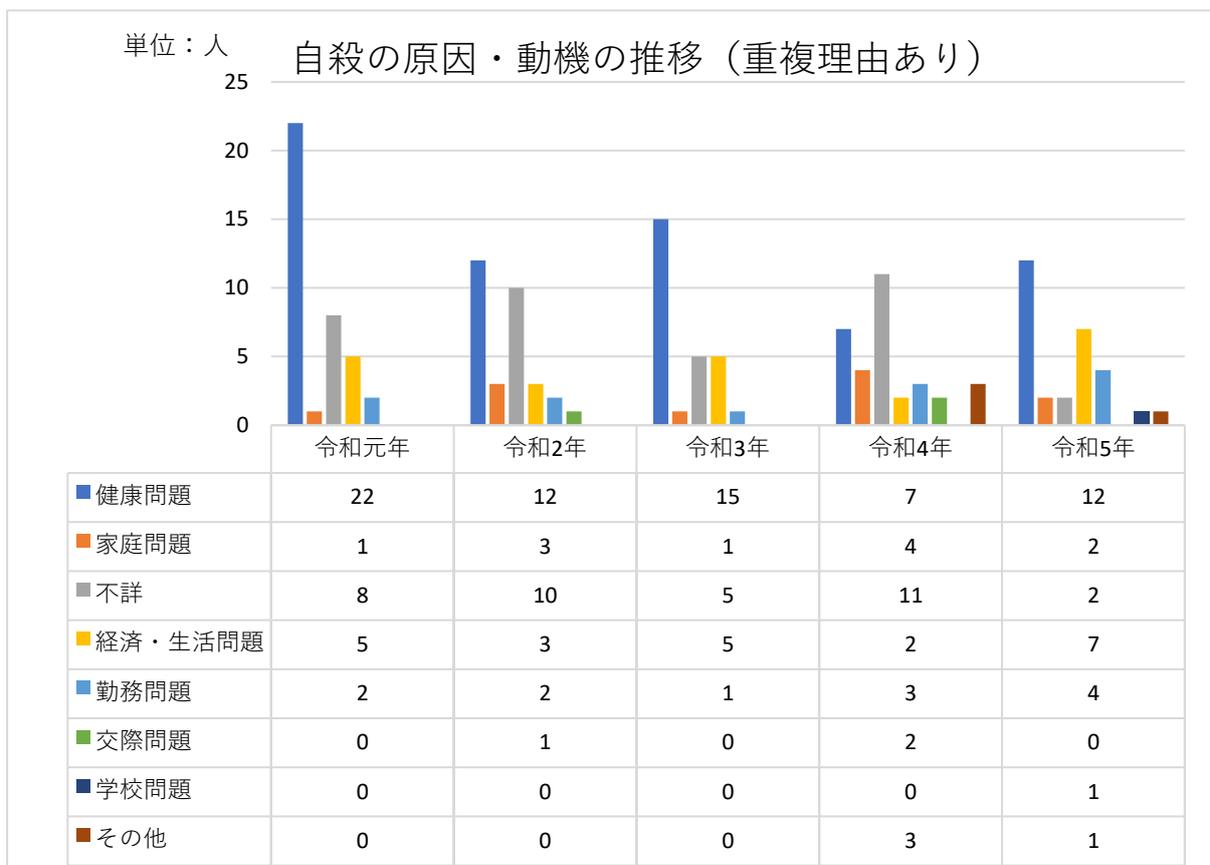
本市の自殺死亡率は、令和元年をピークに減少しており、鹿児島県・全国より低い状況にある。



自殺統計（自殺日・住居地）

(3) 自殺者の原因・動機（重複理由あり）

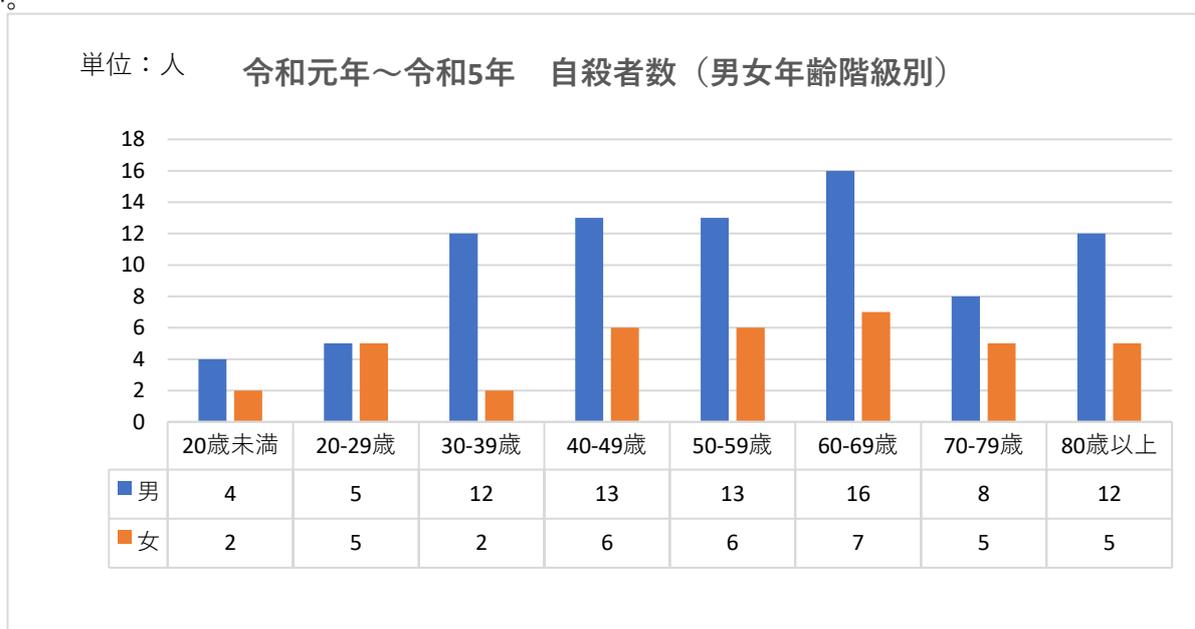
本市の自殺の原因・動機は、健康問題が多いが、自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。



自殺統計（自殺日・住居地）

(4) 自殺死亡者の年齢階級別

令和元年からの5年間では、自殺者の60%以上を男性が占め、その中でも60代男性が最も多い。



自殺統計（自殺日・住居地）

2 事業実施状況

施策の方向(1) 生涯にわたる一人ひとりの健康の包括的な支援

具体的施策① 心身及びその健康についての正確な知識の普及

109	健康に関する講演会や健康相談等の実施（健康増進課）
	<p>① 市民健康講座の開催</p> <p>■開催日 令和5年9月23日（土）</p> <p>■参加者 150名</p> <p>■内容 医療センター救急外来についての講演会</p> <p>・演題：「救急外来ってどんなところ？～救急科の紹介と今後の展望～」</p> <p>・講師：霧島市医師会医療センター</p> <p>原浦 博行先生（救急科部長）</p> <p>二川 妙子先生（クリティカルケア認定看護師・特定看護師）</p> <p>山並 晃輔先生（救急救命士）</p> <p>■開催日 令和5年12月2日（土）</p> <p>■参加者 90名</p> <p>■内容 耳の構造、機能、病気についての講演会</p> <p>・演題：「耳のはなし～めまいや加齢性難聴について～」</p> <p>・講師：井内 博之先生（霧島市医師会医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長）</p> <p>②健康相談（すこやか保健センター）</p> <p>■開催回数：162回 ■相談者数：1,357人</p>

具体的施策② 性差を踏まえた健康づくりの支援

110	生活習慣病予防対策の実施
	<p>（健康増進課）</p> <p>40歳以上で医療保険に加入していない者を対象に生活習慣病等の予防を目的とした健康診査を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげた。</p> <p>■受診者：103人</p>

(保険年金課)

生活習慣病の早期発見、重症化予防を目的に、後期高齢者医療被保険者を対象に、健康診断(長寿健診)及び人間ドックの助成を行った。

■健康診断(長寿健診)は受診券を郵送し、5月～10月に市内62箇所の委託医療機関で個別健診を実施した。

受診券発送数	16,523通
受診者数(結果通知発送数)	6,830人(38.94%)

■人間ドック助成

一般コース	127人
女性コース	37人
脳疾患コース	8人
がん予防コース	13人

111 がん予防対策の実施(健康増進課)

受診者の疾病の早期発見・早期治療につなげることができ、男女が生涯を通じて適切に自己の健康管理を行うことに役立った。

年 度	年 度	R4	R5
胃がん検診	受診者数	3,487人	3,256人
	受診率	4.60%	4.30%
大腸がん検診	受診者数	7,048人	6,915人
	受診率	9.3%	9.14%
腹部超音波検査	受診者数	3,830人	3,943人
	受診率	-	-
肺がん検診	受診者数	5,373人	5,095人
	受診率	7.1%	6.73%

112 こころの健康づくりの実施(すこやか保健センター)

■心の健康相談

開催日: 月2回、年24回(毎月第2木曜日、第4火曜日)

開催場所: すこやか保健センター

相談者: 45人(延べ)

周知方法: 広報誌に翌月の相談日時を掲載

30～40代の相談が多く、子どもの不登校や発達面、自身の体調不良や子どもへの関わり方といった相談内容が多かった。

113 地域のひろば推進事業の実施(長寿介護課)

地域のひろば推進事業により、地域の集いの場の支援を行った。

延べ参加者数: 37,844人(開催回数: 2,829回)

実施箇所件数: 99件

114	健康づくりのリーダー育成（健康増進課）
	地域における健康づくり活動への支援、研修会への支援 ・健康運動普及推進員 46名 ・食生活改善推進員 85名
115	自殺防止のための総合的な取組（健康増進課）
	①自殺対策検討委員会 年1回 ②ゲートキーパー研修会 年1回 対象) 窓口対応職員 44名参加 ③自殺予防週間、自殺対策強化月間の啓発 広報誌への掲載、ホームページ、FMきりしまでの周知、庁舎(総合支所含む)や図書館にポスターを掲示した。

具体的施策③ 性差に応じた検診の実施及び相談体制の充実

116	乳がん・子宮がん検診等の普及啓発と受診率向上の取組み（健康増進課）																
	完全予約制を導入し、受診しやすい検診体制を整備し、また、周知活動を強化した。																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>対象者数</th> <th>受診者数</th> <th>受診率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子宮頸がん検診 (20歳～69歳)</td> <td>37,082人</td> <td>3,400人</td> <td>9.17%</td> </tr> <tr> <td>乳がん検診 (40歳～69歳)</td> <td>24,955人</td> <td>3,062人</td> <td>12.3%</td> </tr> <tr> <td>骨粗しょう症検診</td> <td>-</td> <td>1,603人</td> <td>(前年比+97人)</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	対象者数	受診者数	受診率	子宮頸がん検診 (20歳～69歳)	37,082人	3,400人	9.17%	乳がん検診 (40歳～69歳)	24,955人	3,062人	12.3%	骨粗しょう症検診	-	1,603人	(前年比+97人)
年 度	対象者数	受診者数	受診率														
子宮頸がん検診 (20歳～69歳)	37,082人	3,400人	9.17%														
乳がん検診 (40歳～69歳)	24,955人	3,062人	12.3%														
骨粗しょう症検診	-	1,603人	(前年比+97人)														

具体的施策④ 年代に応じた健康づくりの支援

117	妊娠・出産や更年期などの女性の健康に関する啓発・相談等の実施 (すこやか保健センター)
	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠後期及び出産後に妊産婦にアンケートを実施し、面談希望があれば、訪問や来所面談にて相談対応 ・妊産婦の心身の体調が不安定な場合は、夫にも面談を実施しサービス情報の提供や支援を実施 ・妊婦とそのパートナーを対象に、沐浴・抱っこ体験事業を実施 ・20歳以上の女性が対象である女性検診の場面で、乳がんの自己検診法について動画にて啓発

施策の方向 (2) 妊娠・出産等に関する健康支援と性に関する正しい理解の促進

具体的施策① 妊娠・出産期における健康支援

118	早期の妊娠届出の勧奨と母子健康手帳の交付（すこやか保健センター）																
	<p>妊娠中からの切れ目ない支援を行うため、医療機関に対して早期に妊娠届出をすることの周知を行った。また母子健康手帳交付時の面談にて心身の状態や生活環境などに不安のある方を把握し、対象者には妊娠期より電話や訪問による支援を行った。</p> <p>■妊娠届出数 816人 ■母子健康手帳交付数 828冊</p>																
119	妊婦検診の公費負担による経済的負担の軽減（健康増進課）																
	<p>①母体や胎児の健康確保を目的に公費負担による14回の妊婦健診を実施した。</p> <p>■実受診者数：1,298人（うちエイズ検査受診者：805人）</p> <p>■延べ受診者：10,476人</p> <p>②妊娠中の歯周疾患等の予防のために、妊婦歯周病検診を実施し、安心して出産できるように努めた。</p> <p>■受診者数：412人</p>																
120	保健師等による新生児・産婦訪問（すこやか保健センター）																
	<p>母子健康手帳交付時や新生児訪問時に産後のメンタルヘルス、育児休暇制度、男性の育児参加についての保健指導を実施した。</p> <p>■訪問件数 1,476件（延べ）</p> <p>■対象 妊婦・産婦・新生児・未熟児・乳児・幼児</p>																
121	産後ケア事業等による産後支援体制の充実（健康増進課）																
	<p>産後ケア及び産婦健康診査の費用を助成することで、産科医療機関との連携がより深まり、安心・安全に出産する環境整備が整えられた。R5.10月から産後ケアの助成額も増額し、産後ケア利用者も増加しており、妊娠から産後まで切れ目のない支援の充実につながっている。</p> <p>■産後ケア事業</p> <table border="0"> <tr> <td>利用者数（実）</td> <td>228人</td> </tr> <tr> <td>利用日数 宿泊型（延べ）</td> <td>43日</td> </tr> <tr> <td>利用日数 日帰り型（延べ）</td> <td>192日</td> </tr> <tr> <td>利用日数 日帰り短時間型（延べ）</td> <td>89日</td> </tr> <tr> <td>利用日数 訪問型（延べ）</td> <td>410日</td> </tr> </table> <p>■産婦健康診査事業</p> <table border="0"> <tr> <td>産後2週間健診受診者</td> <td>814人</td> </tr> <tr> <td>産後1か月健診受診者</td> <td>841人</td> </tr> <tr> <td>延受診者数</td> <td>1,656人</td> </tr> </table>	利用者数（実）	228人	利用日数 宿泊型（延べ）	43日	利用日数 日帰り型（延べ）	192日	利用日数 日帰り短時間型（延べ）	89日	利用日数 訪問型（延べ）	410日	産後2週間健診受診者	814人	産後1か月健診受診者	841人	延受診者数	1,656人
利用者数（実）	228人																
利用日数 宿泊型（延べ）	43日																
利用日数 日帰り型（延べ）	192日																
利用日数 日帰り短時間型（延べ）	89日																
利用日数 訪問型（延べ）	410日																
産後2週間健診受診者	814人																
産後1か月健診受診者	841人																
延受診者数	1,656人																

具体的施策② 性に対する正しい知識の普及

122	学校における性に関する指導の実施（学校教育課）
	各学校において、保健や保健体育の授業を中心に理科や家庭科、特別活動等、教育活動全体を通して性に関する指導を実施するとともに、性に関する知識の習得や性情報の氾濫や意識の多様化を踏まえ、全体指導と個別指導の効果的な指導の在り方を工夫し、指導の充実を図ることができた。
123	性の多様性に関する啓発と相談体制の充実（学校教育課）
	<p>①性的マイノリティの児童生徒から相談等があった際には、必要に応じて学校や学校教育課と連携を図る体制をとっている。また、緊急に対応が必要な案件であれば、関係機関へ繋ぎ、本人が安心して学校生活が送れるよう努める。</p> <p>②・性に関する指導は、全学校、全体計画・年間指導計画に基づき、保健主任、養護教諭を中心とし、全職員で計画どおり確実に実践することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的マイノリティ等の悩みを抱える児童生徒が相談しやすい体制づくりを各学校の実態に応じて行うことができた。 ・性的マイノリティに対する正しい理解について、外部講師を招聘し、性的マイノリティに関する講話等を実施した学校も見られた。

124	学校における性感染症に関する教育の推進（学校教育課）
	各学校において、発達の段階に応じた性に関する指導を行い、保健の授業を中心に性被害や加害、性感染症の知識や予防方法等について理解を深めることができた。あわせて、日常生活において、感染者との正しい接し方について指導することができた。

具体的施策② 妊娠・出産に対する正しい知識の普及

125	思いがけない妊娠・性感染症の予防に関する啓発（健康増進課）
	<p>学校教育課や小中学校の養護教諭との連絡会を開催し、思春期保健の充実に取り組むことができた。今後も妊婦健康診査におけるHIV抗体検査などの性感染症検査の受診勧奨をすすめていく。また、性に関する正しい知識の普及を図るためにも関係機関と連携し望まない妊娠の予防に努める。</p> <p>●妊婦健康診査におけるエイズ検査者数： 805人</p>

施策の方向（3）生涯にわたるスポーツ・身体活動の推進

具体的施策① スポーツ・身体活動を楽しむことができる環境づくり

126	スポーツ施設の利用促進（スポーツ・文化振興課）										
	<p>■指定管理者による自主事業については、フラダンス、テニス等の講座を市広報誌等で紹介し、市民の運動機会を提供した。</p> <p>■コロナ禍を経て、日常生活が戻り、通常営業に戻ったことにより、各地区スポーツ祭等が再開されスポーツ施設の利用が増加した。また、特別国民体育大会開催により、市民のスポーツへの関心が広がり、余暇活動や自己啓発など体力向上を図る機会の提供が増加した。</p>										
127	各種スポーツイベントの実施（スポーツ・文化振興課）										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>イベント</th> <th>実績（参加者数、開催回数等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>霧島スポーツまつり2023</td> <td>13,000人</td> </tr> <tr> <td>スポーツ推進委員による ニュースポーツ体験講座</td> <td>1,545人、 37回</td> </tr> <tr> <td>学校体育施設開放事業</td> <td>33校、延べ利用者数192,388人（213団体）</td> </tr> <tr> <td>各地区のスポーツ祭</td> <td>7地区、19競技、2,196人</td> </tr> </tbody> </table>	イベント	実績（参加者数、開催回数等）	霧島スポーツまつり2023	13,000人	スポーツ推進委員による ニュースポーツ体験講座	1,545人、 37回	学校体育施設開放事業	33校、延べ利用者数192,388人（213団体）	各地区のスポーツ祭	7地区、19競技、2,196人
イベント	実績（参加者数、開催回数等）										
霧島スポーツまつり2023	13,000人										
スポーツ推進委員による ニュースポーツ体験講座	1,545人、 37回										
学校体育施設開放事業	33校、延べ利用者数192,388人（213団体）										
各地区のスポーツ祭	7地区、19競技、2,196人										

具体的施策② スポーツ・身体活動における女性の参画の拡大

128	女性スポーツ推進委員の養成・活用（スポーツ・文化振興課）
	<p>■推進委員の委嘱期間が令和4年度から2年間であるため、前年度から引き続き、各地区2名以上の女性委員を委嘱している（21名／89名、23.6%）。</p> <p>■市スポーツ推進委員協議会内に設置された女性部会を年1回開催し、女性の運動に関する課題や運動機会の充実等について協議を行った。</p> <p>■女性部会内での意見交換により、女性の運動に関する課題や解決に向けた取組みなど、活発な議論がなされ、今後のスポーツ活動の推進に大きな励みとなった。</p>

3 数値目標の推進状況

項目	現状値 (計画策定時)		現状値		目標値	
	数値	年度	数値	年度	数値	年度
子宮がん検診受診率(20歳～69歳)	8.6%	2022	9.17%	2023	13.3%	2027
乳がん検診受診率(40歳～69歳)	11.9%	2022	12.3%	2023	11.6%	2027
妊娠・出産について満足している市民の割合	92.5%	2022	94.9%	2023	95.0%	2027
運動習慣のある者の割合(※) ①(20歳～64歳)	47.7%	2021	—	—	52.7%	2027
運動習慣のある者の割合(※) ②(65歳以上)	65.8%	2021	—	—	70.8%	2027

(※) 計画策定時の数値は令和3(2021)年度健康きりしま21アンケート調査における数値